

# 日本史 コンサルジュ

歴史がご案内いたします

## 白駒妃登美

みて下さい。自分の思い通りにいかなくても、それが「うまくいっていない」とは限りませんよ。

明治維新の先駆けとなり、松下村塾で幾多の人材を育て上げた吉田松陰。彼の教育者としての素質が開花したのが、獄中だったことをご存じでしょうか。

入れられるのです。野山獄は入ったが最後、二度と出られないといわれていたため、囚人たちは荒びきっていたといいます。

そのような環境で、松陰は自ら勉学にいそむ一方、囚人たちの才能を見抜いては教えを請うといつことを繰り返したそうです。「あなたは書かうまい」

その講義のあまりの素晴らしさに、囚人も看守も皆、正座をして涙を流しながら聞き入ったといわれています。

その後、恩赦により、牢を出て実家での謹慎処分となった松陰は、獄中と同様に孟子の講義を始めました。すると、その講義の評判を聞きつけた近所の少年たちが、松陰のもとへ通ってくるようになり

獄に入れられたことは、人生最大のピンチだったはずですが、ところが、そこから松陰の人生は開けました。彼の志を弟子たちが受け継ぐことで、彼の名は歴史に燦然と刻まれたのです。

松陰の人生を振り返って思うのは、人生の「壁」。こそが、実は天から与えられた「扉」なのかもしれないということです。心にゆとりがなければ、それは壁にしか見えません。しかし、落ち着いて深呼吸して、一歩、一歩と下がって視野を広げてみると、きつと壁のどこかにドアノブが見つかるはず

## 希代の教育者 吉田松陰

彼は鎖国政策が敷かれる中で、国禁を犯し、黒船に乗り込んで自分をアメリカへ連れて行ってほしいと懇願しました。ところが、願いが受け入れられないと知ると、深く自首します。

その結果、松陰は生まれ故郷の萩（現在の山口県萩市）へ送られ、「野山獄」という牢獄に

「あなたの作る俳句は味があつて素晴らしい」……。そうして才能を見いだされた囚人たちは、次第に先生らしく振る舞うようになり、野山獄の雰囲気は劇的に変わっていききました。

そして松陰自身も、獄中で孔子と孟子の教えを講義するようになり

きつた近所の少年たちが、松陰のもとへ通ってくるようになり

その後、松陰の叔父が開いた松下村塾を引き継ぎ、高杉晋作や伊藤博文といった人材を育てたのですから、人生は分らないもの

松陰がきつてあったように、どんな境遇にあってもあきらめず、自分に与えられた環境を受け入れ、そこでできる精いっぱいのことを続ける中で、扉は開かれるのだと思います。

おそらく松陰にとって、野山

人生には、良いときもあれば悪いときもあります。自分では一生懸命やっているつもりなのに、それに見合うような結果が得られなかったり、周りの人から認められなかったり……。そんなとき「どうして自分だけがこんな目に遭うのだろう」と思い、「どうせ自分は何をやってもしまくらかない」と投げやりになつてしまつてもありますよね。

でも、ちょっと冷静に考えて